



## デイサービス×ケアマネジャー座談会

# 利用者も支援も「色々」の時代 人生を彩る、デイとケアマネの個別ケア

デイサービスの役割は、利用者が自宅で自立した日常生活を送るための支援。筑後市でデイサービスこすもの管理者をする高山皓さんと筑後市ケアプランサービスのケアマネジャーの座談会を開催し実情を聞くと、時代の変化とともに支援の方法はその人に合わせてより細かく、深く考え実践する必要があるようだ。デイサービスとケアマネジャーの連携による個々の利用者のニーズに寄り添ったケアについて聞いた。

### 取材協力 ▶



**高山 皓さん**

株式会社コスモ 課長・デイサービスこすも 管理者・生活相談員 作業療法士

### 筑後市ケアプランサービスの皆さん



**山下真輝さん**(左) ● 筑後市ケアプランサービス 管理者 主任介護支援専門員

**石橋佳子さん**(中央) ● 同 主任介護支援専門員

**園田一路さん**(右) ● 同 主任介護支援専門員

## 望むケアが明確な利用者・家族 家とデイの連動性を高め QOL 向上

——団塊の世代が後期高齢者となる2025年を迎えました。利用者や家族の変化で感じていることはありますか？

**高山さん** 10年デイサービス（以下、デイ）で勤めてきて、以前は、土地柄、農家の方が多かったのが、いまはサラリーマン出身の方が大半で、社長経験者や大企業出身の方もいらしゃいます。女性も様々な仕事をされてきて多趣味な方が多いです。これまでの生活環境や仕事などの背景によって、考え方や求められるものが変化してきていることを実感しています。日頃の挨拶の仕方にもご意見をいただくことがありますし、ご自身で情報収集をして、どんな運動がいいとか、この運動にはどんな効果があるのか等、主体的に意思を伝えてくれる方が多く、私たちも日々、勉強させていただいています。

**筑後市ケアプランサービス** そうですね。ご自身で意見を表明できる方は、私たちやデイ等の事業者さんにしっかり意

思を伝える方が多いです。また、在宅酸素や胃ろう、インシュリン等、医療的な処置をデイでお願いする方も増えてきました。ご家族も核家族化で、お子さんたちに働いている方が増えて、皆さんそれぞれの生活があって、家でご家族の誰かがいつも見てあげられる家庭がだいぶ減ってきたと感じます。そのため、最初を選ぶ介護サービスに、通所系を選ぶ方が増えています。サービス選択も、ケアマネからだけでなく、インターネットや知人や近所の介護経験者等、ご家族が能動的に情報収集をしています。ご両親により良いケアを提供したいという想いを強く感じます。また、ご家族の前ではご自身の意思を伝えられない利用者さんもいらっしゃるもので、その場合はご家族のいないところで聞いたり、デイの職員からご本人が話したことをケアマネに共有してもらったりしています。

——サービス内容には、どのような変化がありますか？

**筑後市ケアプランサービス** 以前はデイ内で提供されるプログラムのみを実施することも比較的多くありましたが、今はニーズや目標に沿って自宅で安全に生活することを視野